

プレバソン®フロアブル5

■種類名：クロラントラニプロール水和剤

■有効成分：クロラントラニプロール----- 5.0%

■登録番号：第22464号（エフェムシー・ケミカル登録）

■毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

■登録初年：2009.09.28

■性状：淡褐色水溶性粘稠懸濁液体

■有効年限：4年

■包装：500ml×20本、250ml×40本

1ℓ×12本、2.5ℓ×4缶

【特長】

- ジアミド系有効成分クロラントラニプロール含有の野菜・畑作用の殺虫剤。
- チョウ目、ハエ目害虫に高い効果を発揮する。また、散布だけでなく、灌注処理においても卓効を示す。
- 速やかに害虫の摂食活動を停止させ、長い残効性を示す（灌注処理で約4週間、茎葉処理で約2週間効果が期待できる）。
- 適用作物に対する安全性が高い。

【適用内容】（2022年1月26現在）

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロラントラニプロール を含む農薬の 総使用回数
キャベツ	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ネキリムシ類 カブラハバチ	100	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5~4L)当り 0.5L	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 定植後の 処理は 3回以内)
	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバ類	500	苗地床1㎡当り2L				
	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウワバ類 オオタバコガ	2000	100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布 無人航空 機による 散布	
	20	1~2L/10a					
はくさい	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ	100	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5~4L)当り 0.5L	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	
	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ カブラハバチ	20	1~2L/10a				
エンサイ	ハスモンヨトウ	2000	100~300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
つるむらさき					3回以内		3回以内
かぶ	コナガ	2000	100~300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
非結球あぶ らな科葉菜 類(タアサイ、ひろしま な、なばな類 を除く)							
タアサイ	オオタバコガ	100	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5~4L)当り 0.5L	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	3回以内 (灌注は回以内、 散布は回以内)
ひろしまな	ハスモンヨトウ						
	コナガ	2000	100~300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ケラントラピロール を含む農薬の 総使用回数
なばな類	アオムシ	100	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5~4L)当り 0.5L	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回 以内)
	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ	2000	100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	
アマランサス(茎葉)	シロオビノメイガ						
だいこん	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ						
はつかだいこん	カブラハバチ ハモグリバエ類	1回	1回	3回以内	1回	1回	
カリフラワー	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ	100	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5~4L)当り 0.5L	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回 以内)
ブロッコリー	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ	2000	100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)
		20	1~2L/10a			無人航空 機による 散布	
レタス	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ	2000	100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)
		20	1~2L/10a			無人航空 機による 散布	
	ハモグリバエ類	1000 ~ 2000	100~300L/10a	散布			
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類 ネキリムシ類 ヒメフタテンヨコバイ	100	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5~4L)当り 0.5L	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	
茎ブロッコリー	ハスモンヨトウ	2000	100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回 以内)
		100	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5~4L)当り 0.5L	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	
非結球 レタス	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類 ネキリムシ類 ヒメフタテンヨコバイ	100	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5~4L)当り 0.5L	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回 以内)
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ハモグリバエ類	2000	100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	
トマト	ハモグリバエ類	1000 ~ 2000	100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時まで の処理は 1回以内、 散布は 3回以内)
	オオタバコガ	2000					
ミニトマト	ハモグリバエ類 コナジラミ類	100	1株当り25mL	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回 以内)
		200	1株当り50mL				
	100	1株当り25mL					
	200	1株当り50mL					
	ハモグリバエ類 オオタバコガ	2000	100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	カウンタリ [®] ール を含む農薬の 総使用回数
なす	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類 ネキリムシ類	100	1株当たり25mL	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	3回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、 散布は 2回以内)
	ハモグリバエ類	200	1株当たり50mL				
		ハスモンヨトウ オオタバコガ	1000 ～ 2000	100～300L/10a	収穫前日まで	2回以内	
とうがらし類	ハスモンヨトウ コナジラミ類	100	1株当たり25mL	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以 内、散布は3回 以内)
	ハスモンヨトウ オオタバコガ	1000 ～ 2000	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内 2回以内	散布	
ピーマン	ハスモンヨトウ コナジラミ類	100	1株当たり25mL	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	3回以内 (灌注は1回以 内、散布は2回 以内)
きゅうり	ハモグリバエ類	100 ～ 200	1株当たり25mL				
		200	1株当たり50mL				
	ウリノメイガ	1000 ～ 2000	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (定植時までの 処理は 1回以内、散布 は3回以内)
ズッキーニ	1000						
メロン すいか	オオタバコガ ハモグリバエ類	2000	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
とうがん にかうり いちご	ハスモンヨトウ						2回以内
パセリ	ヨトウムシ						2回以内 (灌注は1回以 内、散布は1回 以内)
せり科葉菜類 (パセリを除く)							1回
らっきょう	ハモグリバエ類			収穫3日前 まで	3回以内	無人航空 機による 散布	3回以内
ねぎ	シロイチモジヨトウ ネギコガ ハモグリバエ類	20	1～2L/10a	収穫3日前 まで	3回以内	無人航空 機による 散布	4回以内 (灌注は 1回以内、 定植後の処理 は3回以内)
	ハモグリバエ類	100	セル成型育苗トレイ1箱または ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5～4L)当り 0.5L	育苗期後半 ～定植当日	1回	灌注	
えだまめ	オオタバコガ ハスモンヨトウ	4000	100～300L/10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布 無人航空 機による 散布	3回以内
だいず	マメシンクイガ ウコンノメイガ	16～ 32	0.8L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
あずき	アズキノメイガ	4000	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内		
未成熟ささげ	ハスモンヨトウ	2000					
未成熟そらまめ	ハモグリバエ類	1000 ～ 2000		収穫前日まで	3回以内		3回以内
さやいんげん	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類	2000					
豆類 (種実、ただ し、だいず、 あずき、ら っかせいを 除く)	ハスモンヨトウ	4000		収穫7日前 まで	2回以内		2回以内

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クワントリクロール を含む農薬の 総使用回数				
実えんどう さやえんどう	ハスモンヨトウ ハモグリバエ類	2000	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内				
やまのいも	ハスモンヨトウ ナガイモコガ	20	1～2L/10a			無人航空 機による 散布					
かんしょ	ハスモンヨトウ	2000 ～ 4000	100～300L/10a			散布					
	ナカジロシタバ	16	0.8～1.6L/10a			無人航空 機による 散布					
		4000	100～300L/10a			散布					
ほうれんそう	ハスモンヨトウ シロオビノメイガ	2000	100～300L/10a			散布					
さといも	ハスモンヨトウ	20	1～2L/10a			無人航空 機による 散布					
アスパラガス		2000	100～300L/10a			散布		2回以内	2回以内		
モロヘイヤ								3回以内	3回以内		
しそ科葉菜類 (えごま(葉) を除く)								収穫3日前 まで	2回以内	2回以内	
えごま(葉) ふき ふき (ふきのとう)								収穫120日前 まで			
クレソン (土耕栽培)								コナガ	収穫3日前 まで	3回以内	3回以内
ごま								オオタバコガ	収穫14日前 まで	2回以内	2回以内
とうもろこし								アワノメイガ オオタバコガ ツマジロクサヨトウ	20	1～2L/10a	無人航空 機による 散布
オクラ				オオタバコガ ハスモンヨトウ	2000		100～300L/10a	3回以内	散布		
しょうが				ハスモンヨトウ	2000		100～300L/10a	20	1～2L/10a	無人航空 機による 散布	
とうき	キアゲハ			2000	100～300L/10a		発生初期	4回以内	散布	4回以内	
たばこ	ヨトウムシ	100～180L/10a	収穫10日前 まで		2回以内	2回以内					

【効果・薬害等の注意】

- 使用前によく振ってから使用すること。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節すること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - ◆ 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用すること。
- つまみ菜、間引き菜には使用しないこと。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理すること。洗浄水はタンクに入れること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないように注意すること。
- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。